

(2015年7月9日講演)

8. ワークライフバランス(報道現場の状況)、 女性の活躍推進 (地方創生)、「次世代の意識」の問題

日本テレビ放送網株式会社 報道局 解説委員 宮島香澄委員

<報道の現場の状況>

- *ワークライフバランスへの意識はあるものの、発生案件など、取材対象の状況に仕事が左右される特性があり、自分たちでコントロールしにくい。
- *仕事がないのに残業しているようなところはない。ニュース枠が増えて仕事も増え、時間をかけるほうが成果があがる仕事も少なくない。
- *制度はきちんとしていて、引き継ぎ可能な業務では効率化の意識はある。
- *効率化が難しい仕事があり、育児中の女性自身が、同僚と同じことができないことに悩んで報道を出るケースが少なくなかった。
- *女性だから仕事がしにくいということはあまりないが、子供をもつと、独身や家事をしてくれる主婦がいる男性の働き方に合わせることに困難。
- *仕事の領域をはっきりさせる、というのと逆で、何かあったら他の部の仕事も手伝うのが当然の環境。

<地方の状況>

- *地方の男女共同参画の会議に参加し、都内でしている議論と意識の違いを感じた。
- *働く女性の割合は少なくないが、自治会や女性の多い場でもリーダーは男性という感覚。
- *結果として能力のある若い女性が他県に流出。若い女性をひきつける環境が地方創生に必要。
- *自治体によって意識と取組に差があり、今後差が出ると感じる。

<子育て・教育の現場>

- *子育てをする母親世代に、息子と娘への教育姿勢に差がある場合がある。
- *次世代への影響が大きい母親世代に、今の社会経済の状況など、よりわかってもらう場が必要。
- *女性にリーダー経験が少ない面があり、学校教育段階での働きかけも重要。
- *中高一貫校の男子校と女子校の違いをみると、リーダーのあり方に違いを感じる部分がある。今までの男性リーダーと違う形のリーダーとして能力を生かせることもあると思う。

(了)